

◆多野藤岡南毛靈場三十三観音十八番札所
◆旧坂東三郡三十三ヶ所二十五番札所

天祐山
公田院

仁
叟
寺

●吉井町指定重要文化財寺院
●旧古社寺保存法指定寺院

縁起

帰依心の厚い奥平城主、奥平貞訓公によって下奥平公田に室町時代、応永元年より正長元年（一三九四～一四二八）にかけて創建されたと寺史が伝えている。

その後、公の裔孫、貞能公が大永二年（一五二二）寺を現在地に移して本堂を再建し、高僧直翁齋正禪師（北群馬郡雙林寺四世）を初代住職に請じ、寺領を寄進して開山されたのが現在の寺のはじめである。

仁叟寺の山号は天祐山公田院と云い、曹洞宗に属し、御本尊は釈迦如来の座像である。

開山以来、法灯約五〇〇年間、戦乱の世にも巖然として格式を保ち続け、長根城主小幡縫殿介、宮崎城主奥平信昌夫人亀子、吉井城主菅沼小大膳亮定利、地頭溝口豊前守勝信等の帰依と手厚い外護を受け、徳川三代將軍家光公の代にすべての寺領を除地とし、さらに御朱印二十五万石として改めて下附された。

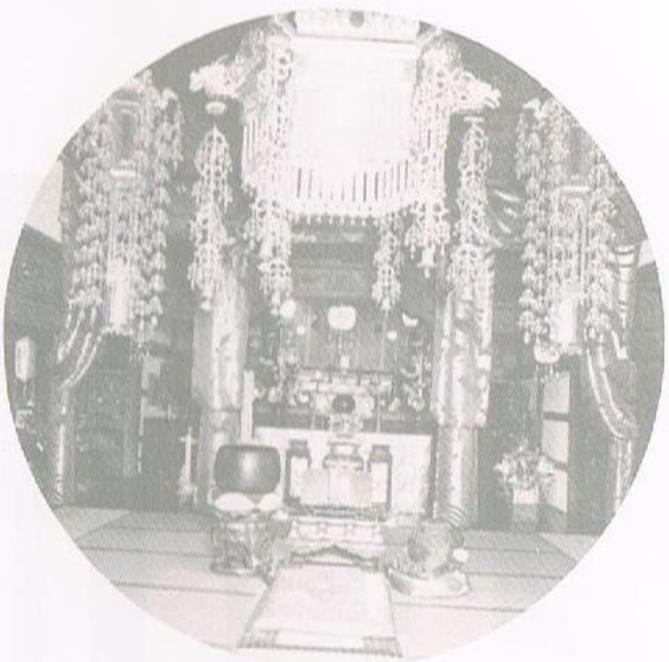
下って明治二十三年、県下各宗寺院中、二ヶ寺の内の一寺として古社寺保存指定を受け内務省より保存の御下賜金を賜り、大正九年には宗門上位の別格地に認可される。昭和四十六年には総ての建造物が吉井町指定重要文化財となる。末寺八ヶ寺を有し禅風大いにふるい、鎮護国家、万民共和、五穀豊穰の祈願寺として多くの人々の尊崇を受けながら今日に至っている。



本堂

大永二年（一五二二年）に下奥平から移転、再建されたもので北に開山堂、東に庫裡棟を配す木造建築で、間口十三間半、奥行九間半あり当時をそのままに壮大にして豪放な規模を残している。

戦国の時代を背景に構想され建築されたこの本堂は、きらびやかさを避けてむしろ質実剛健な意匠をこらして迫力ある空間構成がなされている。



伝えている

信仰の中心として開かれたこの本堂は、壇信徒をはじめ、訪れる多くの人々に心のよりどころと安らぎを与えている。

◎座敷牢

本堂の北東の隅の二階が、座敷牢として使われていた。これは寺域に逃げ込んできた犯罪容疑者や、俗世の苦痛を逃れて救いを求めにきた人達をここにかくまい、飯を与え、事情を聞いて時には助命を願い出たり、又、苦しみから解放してやつたりしたという珍しい駆け込み寺の遺構が残されている。

これは、この寺の格式が高いものであったことを無言のうちに物語っている。



山門

宝暦十一年（一七六三年）十八世祐峯智貫大和尚の代の建立であるが、個性的な楼門は威風を表現して、寺域に趣きを添え、訪れる人々に心の準備を促す役目を果している。

惣
門

寛文三年（一六六三年）十一世眼国相朔大和尚の
代の建立で、表参道に面し、寺格を伝えている。

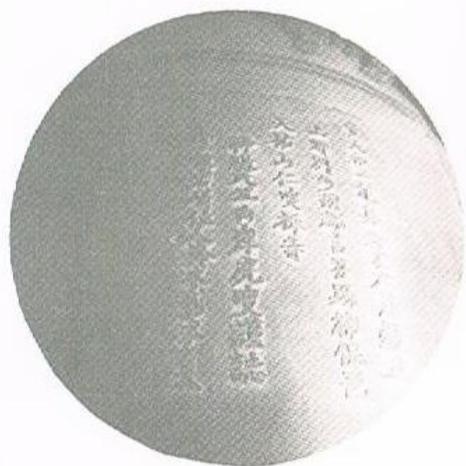


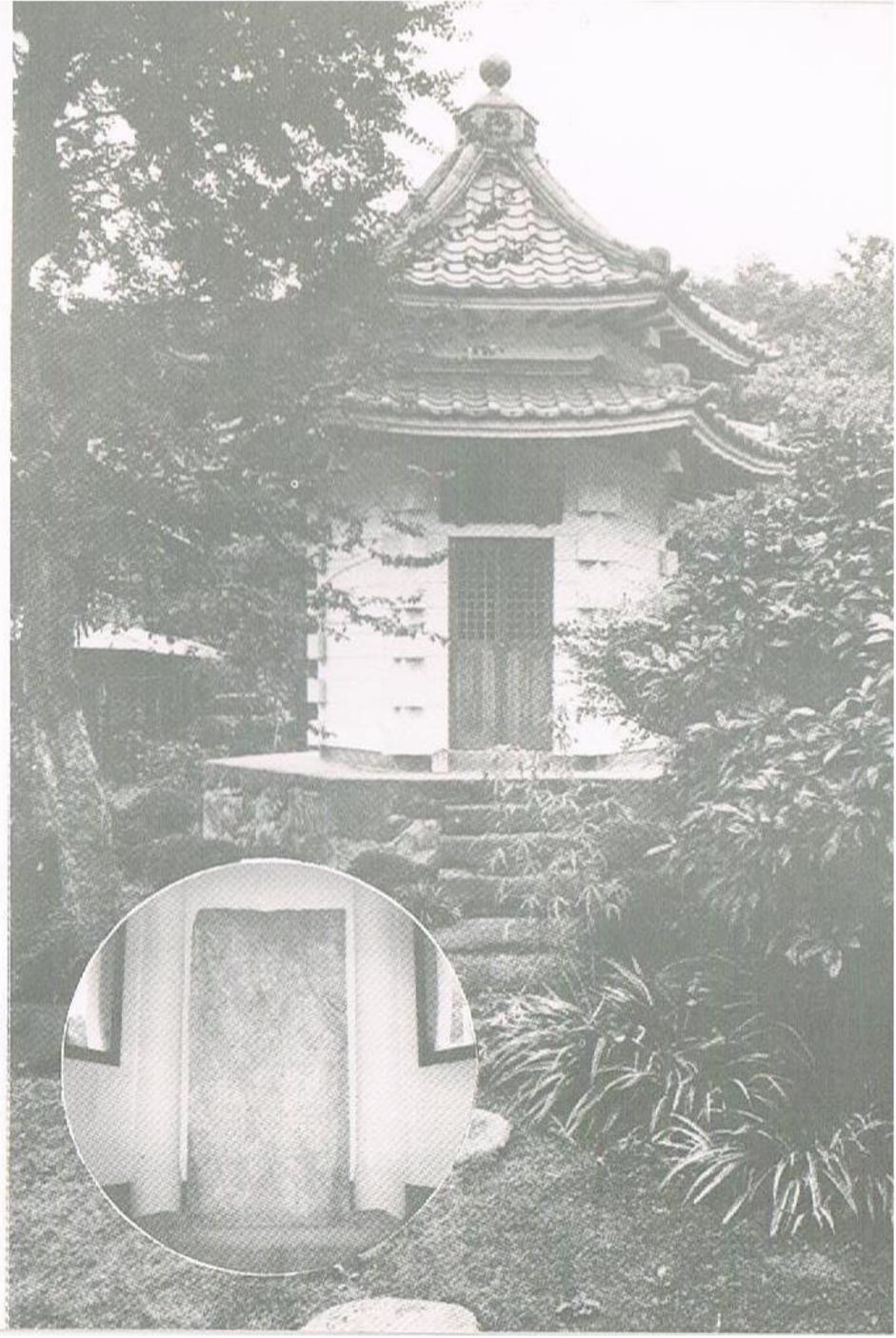


鐘楼堂及び梵鐘

天和三年（一六八三年）十二世白岸賢虎大和尚の代に建立されたもので、梵鐘も創建時に鑄造されたものである。三〇〇年余の昔から時を告げ、平安を願う心を響かせてきた。

この鐘楼は、昭和五十三年、大改修が行われ、更に次代へ引き継がれることになった。





古照堂及び仁叟寺多胡碑

仁叟寺多胡碑が納められている。

この碑は近在の檀徒の屋敷にあって、長い間大切に保存されていたものであるが、貴重な文化財を私するにしのびないとの意を帯して、当寺への移転が行われたものである。一篤信者の寄進によって昭和五十一年に覆堂が建てられ、檀信徒の手厚い庇護のもとに永久保存されることになった。

古照堂の名には、未だ明けやらぬ歴史の闇に一条の光を射し込み、真実が照り映える日を待つ檀信徒をはじめ多くの人々の願いがこめられている。

筆塚

昭和五十四年、山門の脇に高崎書道会の会員により、退筆の供養及び書道向上の為に建立された。毎年三月に筆供養が盛大に催されている。



子育観音

昭和五十三年、鐘楼堂の近くにあり、子供達のですこやかな成長と心願成就を祈るために建てられた。高岡市の山岸大鋳師の作による唐金製の観世音であり、慈顔をたたえている。



石塔

開基塔

〔応永塔〕

足利時代（応永年間）

（天祐院殿仁叟貞訓大居士）・仁叟寺を創立した
奥平城主、貞訓公墓碑である。





長谷川淡路守墓碑

江戸時代（寛永年間）
（長松院殿恵林了智大居士）

長谷川讚岐守墓碑

江戸時代（慶長年間）
（祖庭院殿趙英宗伯大居士）

溝口豊前守勝信公墓碑

江戸時代（元禄年間）
（智光院殿実参了心大居士）・元禄九年、寺領及
び金穀を寄進。

石像



薬師如来石像

(鎌倉時代)

素朴であたたかみのある鎌倉時代の石仏で大変貴重なものである。

大地蔵菩薩立像

(天明三年)

浅間山の天明の大爆発による被害、飢饉による餓死者等の供養の為に建てられた大石地蔵である。

竜の茶杓

宗祖道元禪師が唐より帰国する際に、本師如浄禪師から、万一、海路が荒れて危機に遇ったならこれを竜神に差し出し、難を逃れるようにと賜ったものと云われている。住職が任職中一日のみ室中にこもり拝見させていただくことが許される門外不出の寺宝である。

千手観音

行基菩薩の作で、羊太夫の守本尊と伝えられている。脇侍として六観音をもつおだやかな表情の仏像である。旧坂東三郡二十五番札所、又、南毛霊場多野藤岡十八番札所の観音様であり、子授け観音とも云われ親しみ貴ばれている。



山号及び寺号扁額



心越寺

水戸水園公の帰依を受けていた渡来僧、東臯心越禅師の雄渾な染筆になるものであり、歴史をしのばせている。

心越禅師は高崎少林山達磨寺の開祖でもあり、当時の天下三祐筆と称せられた高僧である。

●天然記念物

カヤの木とモクの木

本堂の前にそびえ立つ大木がカヤの木で、当寺開山の手植えと伝えられている。果実が左巻きという珍しいもので天宮の宿り木と云われ火防の神木として知られている。県指定の天然記念物である。又、モクの木は寺域の北東にある大木で町指定の天然記念物である。二本の大木は当寺の伝統を象徴するかのよう堂々として、四季の移ろいを見せ、訪れる人の目をうばい心をなごませてくれる。

他の収蔵品

● 画 幅

宋、牧谿の親子竜、日本三幅対の一つという。

● 掛 軸

開山の禅師より二世和尚が授与されたものである。

● 御 駕

赤と黒の各一輛があり、歴代住職が乗られたものである。

● 大 釜

赤銅板をはぎ合わせて作った一石入りの大釜で、寺伝によれば永録年間に使用したことがあると云われている。

年間の行事

- 3月第2日曜日 恒規大般若転読
大施餓鬼 } 大法会
- 4月8日 花まつり (降誕会)
- 毎週土、日曜日 書道会
- 夏期研修会 参禅会
- 法話会 (随時)
- 春秋彼岸会
- 8月13日～16日 盂蘭盆会
- 12月31日 除夜祭



交通案内図



- 上信電鉄線吉井駅下車徒歩13分
- 群馬県多野郡吉井町神保1295
- ☎0273 (87) 3080 〒370-21

仁叟寺伽藍配置図

